

活動紹介

宇野



夏休みの学童保育で地域包括支援センターによる「認知症キッズサポーター養成講座」が行われました。4年生は職員さんからのお話、1～3年生は絵本や「サボくまかるた」を使つての勉強です。民生委員も一緒に読み聞かせやかるたに参加しました。

核家族化で、子どもたちが日常で認知症の方と接することが減っていますので、このような機会は貴重と感じます。きっと子どもたちも、今回の体験をお家で話してくれていることでしょう。

財田



財田地区社会福祉協議会では、令和4年3月に子どもたちの居場所づくりとして学期に1回『たから食堂』を開催することを決めました。

今年の11月で7回目となりましたが、毎回20人から30人位の参加者となっています。

子どもたちは、調理のお手伝い、夏にはスイカ割り、冬にはもちつき・クリスマスの飾り物づくり等の体験やボランティアとして参加している大学生のお兄さん・お姉さんとの屋外での遊び等を通してのふれあいを楽しんでいます。

竜之口



【しゃべり場竜之口】を開きました。

今年は、「中学生は地域でどんな活躍ができるだろうか?」というお題で、竜操中学校の1年生9人と民生委員で意見交換をしました。

小学生の時との違いを聞いてみると、「自転車通学」「部活」「教科担任がいる」と教えてくれました。自転車通学では、「踏切が危険」とも話してくれました。小学校のバザーで遊びのコーナーを手伝ったり、学区のクリーン作戦や体育大会に参加したりと、地域での活躍ぶりも垣間見ることができました。

旭東



旭東学区では、小学校を会場に「防災フェスタ」を開催しています。「楽しく防災を学ぼう」をスローガンに、消防車・救急車の試乗や起震車・煙のトンネル・水消火器等が体験できるイベントです。卵の殻を使った瓦礫歩き体験、百均で用意できる防災グッズ展示、保存食の試食もありました。地域の各種団体や中学生ボランティアを含め約80名の参加があり、民生・児童委員も協力しています。

旭操



10月に開催された“オートムフェスタIN旭操2024”にセーフティーズ(安全安心ネットワーク)と共催し「旭操防災教室」を行いました。

操南中学校からは校長先生はじめ操南防災グループから旭操小学校卒業の1年生10数名がボランティアとして参加し、写真パネル・ハザードマップなどによる説明、防災グッズ展示・非常食の試食提供などに協力いただきました。学区民の関心も高く来年以降もぜひ継続していきたいと思ひます。

操明



令和4年12月から地元有志、民児協、社協で行っている操明みんなの食堂の参加者数が延べ1300人を超えました。また、参加者の1/3は調理ボランティアを担う70～90才の方で、子ども食堂の役割だけでなく世代間交流の場となっています。高齢ボランティアの負担になるのではないかと隔月開催を提案したこともありましたが、「生き甲斐なのでこのままずっと毎月開催にして欲しい」と逆にお叱りを受けたこともあります。2年の間に参加者同士の交流も増えており、これからもみんなで力を合わせて参ります。

操南

民生委員・児童委員活動を行う中で、共通する課題として、高齢者と子どもの『見守り』が挙げられます。

支え合いの会、地域の方々との協力を得て、登下校時の見守りと毎月1日は、小学校校門内での挨拶運動を実施しています。

昨年に続き、幼稚園ボランティア活動も行いました。

地区社協との連携で高齢者配食を行いました。

また、老いても日々を楽しく暮らして頂くことを願って、例えば、高齢者から地域の子供たちに昔遊びを教えてもらったり、温かいふれあいのある地域になるよう、地域の諸団体とともに民生委員児童委員も努力してまいります。

高島



高島地区民児協は、今年度10月に、「南国市津波避難施設スポーツセンタータワー」を視察しました。

この施設は、市民の日常的なスポーツや文化活動の場、スポーツセンターのとなりにあります。いざという時にスポーツセンター利用者が、すぐに避難できるためのものです。

海から1km程の位置にあり、地上3階建てで、屋上部分は海拔10.6mあります。想定される津波の2倍以上の高さがあり、避難収容人数は820人で国内最大級です。

日頃から、地域住民が協力し、連携を深めることで、防災意識を高め、災害時には減災につながるよう努めていきたいものです。

幡多



10月に「丸亀少女の家」の視察研修を行いました。様々な矯正教育の後、社会復帰を目指す女子(14～20歳)の更生施設です。

「支えられている存在である事を知る場」という言葉が印象に残りました。帰岡後、持参したお菓子の礼状が届き、ささやかな応援を更生の力にしようとする気持ちが伝わってきました。彼女たちの将来に幸あれ。

平井



11月、社会福祉の先駆者、藤井静一氏のゆかりの地(岡山市北区三和(みと))を訪ねました。

静一氏が、明治時代中頃から昭和初期にかけて、恵まれない人たちに深い愛情をもち、私財を投じて救済事業に熱心に取り組んだこと、岡山県済世顧問制度の発足時の顧問となり、この制度は現在の民生委員制度として受け継がれていることなど学びました。

静一氏が建てた済世会館をはじめ、地域のあちらこちらには彼の偉業を記した記念碑が建てられています。「先生、先生」と、地域の中で親しみをもたれており、ゆかりの地を今後も保存していきたいという保存会会長のお話から、彼の功績の大きさが伝わってきました。



三勲



5年振りにも三勲地区全体の各種イベントが復活しました。8月は四世代納涼フェスタ、9月は防災フェスタを開催。民児協は、中消防署による消火器体験と消防車見学、日赤岡山県支部によるAED体験を準備しました。乳児・幼児・大人のダミー人形12体を使い、特に子ども連れの家族の方が多く体験されました。12月にはもちつき大会で50キロのもち米を杵でつき、地区住民600名にふるまいました。また年末には、高齢の一人暮らし・二人暮らしのお宅に友愛訪問を行いました。

旭竜



民生委員児童委員6名、主任児童委員2名の全員が、地区社会福祉協議会の役員であり、かつ地区支え合い推進協議会の委員として、今支え合い活動の主力となっている「旭竜助け合い隊のコーディネーター、サポーターとして地域の高齢者等のチョットした日々の困りごと「草取り、ゴミ出し、家の片付け」などを手伝いながら福祉のニーズを掘り起こし「福祉の町旭竜」をモットーに活動しています。

富山



10月18日、学区あいさつ運動の日、富山小学校と富山中学校に分かれて有志が各校の先生方、交通安全母の会の方々と、各校門前に立ちました。15年振りに新調したビブスも披露できました。児童・生徒達に元気をもらった一日の始まりでした。